

亀岡大郎の トップ対談



経済評論家 亀岡大郎氏

■プロフィール
★大正15年京城生まれ。新大阪新聞経済部長を経て経済評論家となる。文芸春秋、サンデー毎日など一流誌で、経済・財界問題を中心に、精力的な活動を続ける一方で「自動車戦争」「ゲリラ商法」「IBMの人事管理」などベストセラー多数。

メモリード・ライフ(東京都文京区) 古川誠 社長(60)



1952年6月27日生まれ。慶応義塾大学経済学部卒業後、西武オールステート生命保険(現 ジブラルタル生命保険)入社。営業、企画畑の要職を歴任。2007年メモリード・インシュアランス・プランニング(現メモリード・ライフ)入社。2010年取締役、2011年現職に就く。趣味は通勤の行き帰りの読書。

高齢入居にもしものことがある。たゞ、身元受人代わりには、元の保険金がオーナーや管理会社に支払われる保険、「ランド・ユー」賃貸住宅に入りたものの入居断られやすい高齢者、高齢入居を促したいがもしリスクを考えると、オーナーを結託して、本紙でもたびたび紹介してきた少額短期保険商品、商品企画・販売するメモリード・ライフ(東京都文京区)古川誠社長の登場だ。

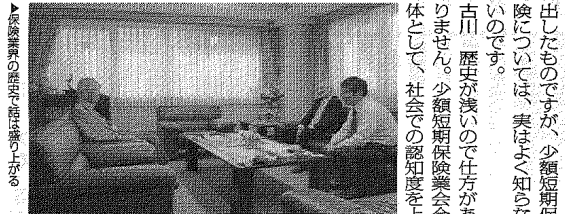
高齢入居者の身元受人代わりになる少額短期保険

「高齡入居者保険」という商品があるのですね。古川 わかってもらいたいように、そういう名前をつけています。高齡の入居者がよくなくなるときに、オーナーに保険金が支払われると。古川 オーナーといいますが、契約者ですね。家族や親類だけでなく、第三者を被保険者として保険金の受取人に設定できるのです。保険の契約者と保険金の受取人を同一の方に限定しているのが、オーナーに契約していただく商品ということになります。古川 これによって孤独死のニュースが一段と減っています。注目度が高まって、おもしろくなってきています。潜在的ニーズがあるので、潜在的ニーズ

高齡入居にもしものことがある。たゞ、身元受人代わりには、元の保険金がオーナーや管理会社に支払われる保険、「ランド・ユー」賃貸住宅に入りたものの入居断られやすい高齢者、高齢入居を促したいがもしリスクを考えると、オーナーを結託して、本紙でもたびたび紹介してきた少額短期保険商品、商品企画・販売するメモリード・ライフ(東京都文京区)古川誠社長の登場だ。

葬儀保険から生まれた オーナーのリスク軽減商品

古川 そうであるが私たちが信じています。しかし、これまでは商品が理解していただけない時間がかかり、やっと最近売れ始めたかな、といったところ。古川 頑張って売らなきゃならない。古川 実際は、もともと葬儀保険として互助会の会員向けに売ってきた商品なんです。古川 互助会から支払われる金額だけでは十分ではないという要望も多かった。上乗せをまかなう保険として売ってました。それを賃貸住宅業界向けに契約形態を工夫して売ったのです。古川 賃貸住宅業界を長く眺めたか、オーナーにはなりませぬ。賃



古川 私たちもその流れの中に入っていくわけにはなりません。古川 新しいものが生まれる前の過渡期ということですね。古川 そうです。この業界は新しいものを吸収して、常に形を変えてきたのです。これからも変わり続けるでしょう。古川 私たちもその流れの中に入っていくわけにはなりません。古川 新しいものが生まれる前の過渡期ということですね。古川 そうです。この業界は新しいものを吸収して、常に形を変えてきたのです。これからも変わり続けるでしょう。

会社概要	
会社名	株式会社メモリード・ライフ
代表者	古川 誠
本社所在地	東京都文京区小石川1-2-4 東洋ビル7F
設立年月日	2006年8月1日
資本金	2億5000万円(資本準備金 2億5000万円)
事業内容	少額短期保険業

空室の増加が
賃貸業界を一変させる

古川 ありがとうございます。